

第二十六回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 21 年 2 月 12 日 16：00～

開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー33F

F07 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、富澤一誠（順不同・敬称略）

放送局側：6 名

議事内容

1. 会社動向、放送事業についての報告

2. 番組課題

A/E-10「くつろぎのイージーリスニング」について

3. 番組審議

- 「くつろぎのイージーリスニング」は当初、統一感ある選曲による安心感を提供することをコンセプトとしていたが、「いつも同じ楽曲が流れる」というクレームがあった。しかし、既成曲に加えてスタジオ USEN オリジナル楽曲（USEN 自社制作による楽曲）を追加投入することにより、こういったクレームもなくなった。
- スタジオ USEN では、ディレクターがエンジニアを兼ねることにより、効率の良い制作を実現している。また、5～6 年前まではマルチレコーディングを行っていたが、現在はより質の高いアンサンブルを録音するため、一発録りを行っている。そのためのスタジオ設備も国内一流レベルと言える。
- 現在 53 のチャンネルでスタジオ USEN オリジナル楽曲が使用されている。
- 楽曲のテンポがよく考えられており、多くのユーザーにも支持されているものの、オーディオ環境が良くなってきている現在では、更にニーズも高度になっている。特に「くつろぎのイージーリスニング」は、同じくスタジオ USEN オリジナル楽曲使用番組である「イージーリスニング・アコースティック」や「イージーリスニング・カジュアル」などと比べて、より演奏家に依存するところが大きい番組だと考えられるので、演奏家の個性についてもよく考えて制作するべきだろう。
- 音楽そのものを鑑賞するための楽曲と、空間を埋めるための楽曲は大きく違う。後者について、自社制作によってセオリーを確立していくべきだろう。
- 「イージーリスニング」というネーミングについて。C/G-18「魅惑のイージーリスニング」のような、敢えて狙ったネーミングを施した場合とは違うので、本チャンネルの商品価値を高めるためにも、ネーミングを再考する余地はあるだろう。多くの人々に聞かれているチャンネルであるという観点からも、より良いネーミングを検討する必要があるのではないか。
- 飲食店の BGM としてジャズが使われるようになって久しい。ジャズは既に成熟したジャンルなので、聴いていて古さを感じないから、というのも広く支持されている理由の一つである。とは言え、ジャズを使う飲食店は飽和してきており、その代替りとなる新しい BGM を提案していくことも、USEN 音楽放送の役割である。
- 本年 4 月に行われる番組改編の内容がほぼ決定した。レコチョク社の発表するランキングに基づいた「週間 HIT レコチョク『着うたフル (R)』」、そして本番組審議会において交わされた意見も取り入れた「J-POP JAZZ COVERS」など、その他多くの新チャンネルをラインナップする。